

6 脱温暖化社会の形成に向けて更なる検討の視点

ここでは、気候変動枠組条約の究極目的の達成に向けて脱温暖化社会を形成していく方策を、引き続き本専門委員会で検討していく上での視点について、審議の経過をとりまとめた。

気候変動問題は、人類が今後 100 年以上の間、否応なしに取り組まざるを得ない問題である。したがって、この問題への取組をより前向きに捉え、脱温暖化社会の形成に向けて価値観をもっとポジティブなものにすることが望ましい。また、日本は、戦略を持ってこの問題に取り組むことが求められる。

(地球規模の気候変動戦略の確立)

- 気候変動問題は世界の問題であると同時に、我が国の問題でもある。気候変動も、またその対策も、日本の現在及び将来に非常に幅の広い影響を与える。このため、地球規模で生じる気候変動の影響、温室効果ガス削減と影響への適応対策の世界的枠組みが、日本に対してどのような影響を与えるのかといった点も分析検討した上で、国際社会において果たすべき責任や役割、さらには我が国の国益や技術立国としての国際競争力の確保といった点も勘案しつつ、戦略を持ってこの問題に取り組むことが求められる。

(世界的規模でのシステム構築の方向)

- どのような長期及び中期の目標を設定するにせよ、その目標の設定とは別に、どのようなプロセス、社会制度によってその目標を達成していくのかについての議論が必要である。
- 制度構築の方向性としては、一つは国際的な合意により社会を変革する政治的な意志を形成していく方向と、もう一つは経済システムの中に組み込むことで、おのずと対策が進むような方向が考えられる。

(豊かな社会を構築する脱温暖化社会の形成)

- 気候変動問題は、人類が今後 100 年以上の間、否応なしに取り組まざるを得ない問題

である。気候変動対策は温室効果ガスの削減が基本であるが、この取り組みをより前向きに捉え、価値観をもっとポジティブなものにすることが望ましい。環境対策を実施することにより、環境保全効果が得られるだけでなく、新しい産業の興隆、技術力の向上とそれによる国際競争力の強化、暮らしの快適さの向上といったプラス面の効果がありうる。このプラス面の効果をどう最大化していくか、その有り様を日本が世界に提言していくという視点が、先進国のみならず、途上国の参加を得て、地球的規模でのシステムを構築していく上で、重要である。

- 地球温暖化対策を持続可能な開発のための取組の中に位置づけ、気候変動対策の推進が持続可能な開発に資するような仕掛けを考えることも重要である。そうすることによって、途上国も気候変動対策を前向きに捉えることが可能となる。例えば、途上国が大気汚染対策を進める上で気候変動対策にも資するような取組が進められており、こうした取組を今後一層推進していくべきである。

(日本社会の脱温暖化ビジョンの有用性)

- 日本がいかなる戦略を展望するのかは、どういう社会ビジョンを持つのかというところに返ってくる。現在、日本は京都議定書の第1約束期間の国際約束を達成するため、地球温暖化対策推進大綱を定めているが、これを超えて、中期的及び長期的な日本社会の脱温暖化に向けた社会経済のビジョンを描く努力が求められる。
- このような日本社会のビジョンを明確にすることにより、社会が進むべき大きな方向を示し、同じく中期的な展望をもって実行することが必要となる都市構造や、水素社会など脱温暖化社会の形成のために必要となるインフラの整備を、それに合わせて進めていくことが求められている。

別添 1

気候変動に関する国際戦略専門委員会 委員名簿

- にしおか しゅうぞう
西岡 秀三 国立環境研究所 理事
- あすか じゅせん
明日香 壽川 東北大学 東北アジア研究センター 教授
- かいぬま みきこ
甲斐沼 美紀子 国立環境研究所 統合評価モデル研究室長
- かめやま やすこ
亀山 康子 国立環境研究所 環境経済研究室 主任研究員
- くどう ひろき
工藤 拓毅 日本エネルギー経済研究所環境グループ グループマネージャー
- すみ あきまさ
住 明正 東京大学 気候システム研究センター教授
- たかはし かずお
高橋 一生 国際基督教大学 教養学部国際関係学科教授
- たかむら
高村 ゆかり 龍谷大学 法学部法律学科助教授
- にいざわ ひでのり
新澤 秀則 兵庫県立大学 経済学部教授
- はらさわ ひでお
原沢 英夫 国立環境研究所 社会環境システム研究領域上席研究官
- まつはし りゅうじ
松橋 隆治 東京大学大学院 新領域創成科学研究科教授
- みむら のぶお
三村 信男 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授
- よこた ようぞう
横田 洋三 中央大学法科大学院教授

○は委員長

別添2

これまでの審議日程

- 第1回 4月8日(木) 10:00~12:00 於: 東条インペリアルパレス
「専門委員会の設置について」
「気候変動に関する科学的知見について」
「専門委員会での検討事項について」
- 第2回 5月31日(月) 13:00~16:30 於: 環境省
「気候変動による影響と適応について」
「中長期的な目標の設定について」
レスターブラウン氏からの発表
- 第3回 7月23日(金) 10:00~13:00 於: 虎ノ門パストラル
「気候変動問題と社会経済の発展シナリオについて」
「気候変動問題と技術の役割について」
「これまでの議論の整理について(1)」
- 第4回 9月3日(金) 10:00~13:00 於: 環境省
「これまでの議論の整理について(2)」
「将来枠組みの構築にあたっての視点について」
「将来枠組みの設計におけるリスク管理の考え方について」
「将来枠組みにおける衡平性の扱いについて」
「途上国・ロシア中東欧諸国の将来枠組みにおける役割について」